

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	15H05791	研究期間	平成27(2015)年度 ～令和元(2019)年度
研究課題名	包括的統合的アプローチによる日本人早期膵癌の高精度診断の具現化	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	森 正樹 (九州大学・医学研究院・教授)

【平成30(2018)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
○	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、早期膵癌患者の試料を収集し、miRNA (micro-RNA : マイクロ RNA) と生理活性物質の異常を解析し、日常生活環境から見たハイリスク因子と、遺伝子多型から見たハイリスク因子を統合した高精度の早期診断を具現化することを目的としている。

平成29年までに26例の早期膵癌症例が集積されており、着実に症例集積を行なっている。また、miRNA やメタボロミクスの解析でも初期に収集された検体を用いた解析が実施されている。早期膵癌の症例集積は目標以上の数を確保できる見込みであり、今後の本格的な解析により期待以上の成果を得る可能性が高い。

【令和2(2020)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、概ね期待どおりの成果があったが、一部十分でなかった。
A-	<p>発見がまれな早期膵癌について、オールジャパン体制を構築して当初に計画した50症例を大幅に上回る66症例を集積し、ゲノムワイド関連 (GWAS) 解析や miRNA の量的並びに質的 (メチル化) 解析を実施しており、数々のマーカー、遺伝子座や分子を見いだしたことは特筆に値し、これら成果をもとに多数の論文が発表された点も申し分ない。</p> <p>しかしながら、環境要因との関連性に関しては、アンケート調査を実施したにも関わらず解析が進められておらず、計画どおりの研究成果が得られていない。そのため、当初計画の目玉であった腫瘍関連因子、遺伝的多型因子と環境因子を統合した膵癌早期診断の基盤構築には至っていない。</p>